蘇る戦国の山城

足助城

あすけ

足助城のご案内

入 城 料：大人 300円 / 高校生 100円
開城時間：午前９時～午後４時30分
（入城は午後4時まで）
休 城 日：木曜日
（４月29日～５月５日及び11月は除く）
年末年始（12月25日～１月５日）
無料駐車場：40台

城跡公園　足助城

〒444-2424 愛知県豊田市足助町須沢39-2
☎ 0565-62-0770
http://asukejo.com/index.html

＜メモ・スタンプ＞

電車・バス利用

名古屋駅 ➡（地下鉄・名鉄電車 50分）浄水駅 ➡（とよたおいでんバス 60分）一の谷口 ➡（バス停 徒歩 40分）足助城

豊橋駅 ➡（名鉄電車 25分）東岡崎駅 ➡（名鉄バス 70分）香嵐渓一の谷口 ➡（バス停 徒歩 40分）足助城

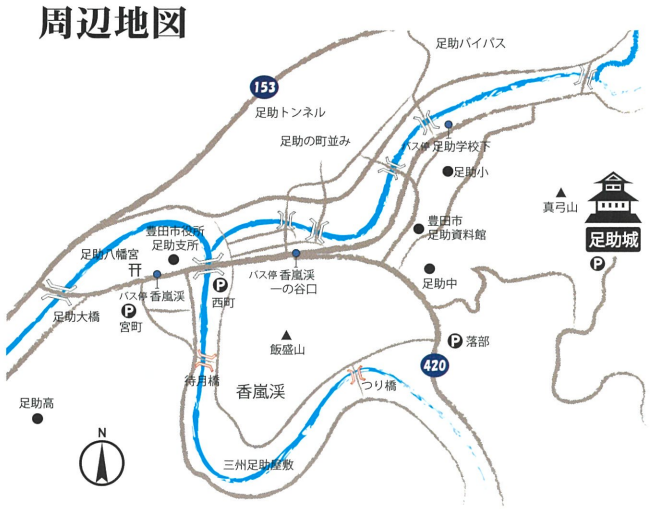
車 利 用

東名高速道路
東名阪自動車道 ➡ 名古屋I.C. ➡（猿投グリーンロード 30分）力石 ➡（国道153号 20分）足助城

中央自動車道 ➡ 土岐J.C.T. ➡（東海環状自動車道 20分）豊田勘八I.C. ➡（国道153号 25分）足助城

東名高速道路
伊勢湾岸自動車道 ➡ 豊田I.C. ➡（東海環状自動車道 10分）豊田松平I.C. ➡（一般道 25分）足助城

周辺地図



足助城　御城印

３００円

入場券販売窓口にて販売中

足助城見取り図

❶ 堀切
足助城の中心施設と、南の山上に伸びる施設を区切る役割をもった堀です。堀の底を通路としても使っていました。

❷❸ 南の丸腰曲輪1・2
西南の谷間を監視する曲輪だったのでしょうか。小さな建物があったようですが、よくわかっていません。

❹ 井戸
足助には、山の斜面からの湧水を溜めるために作った井戸もありました。深い掘り抜き井戸のようにツルベを使うのではなく、大きな柄杓で汲みました。

❺ 西の丸腰曲輪1
この曲輪の先端部分は、掻き上げた土で固められています。小さな建物があったようですが、よくわかっていません。

❻ 西の丸
足助の町を見下ろすとともに、岡崎・名古屋への街道が眺められます。2棟以上の建物があったことがわかっています。

❼ 西物見台
この物見台は、大きな岩盤の上にあります。2.7×5.4mの矢倉は、掘っ建て柱の建物です。2層にしたのは、間近まで他の建物が建てられたためでしょう。

❽ 本丸腰曲輪3
西の丸と南の丸を結ぶ通路にある小さな曲輪です。建物の礎石がみつかりましたが、足助城で礎石を使った建物跡はこの曲輪だけです。

❾ 南の丸
この曲輪は、角ばった扇形に造られています。台所の役割をもつ曲輪で、復元した建物跡の他に、カマドに使われた石や炭などがみつかっています。

❿ 南物見台
矢倉の上から、南方に鶏足城を望むことができます。鶏足城への連絡を兼ねた矢倉だったのでしょう。

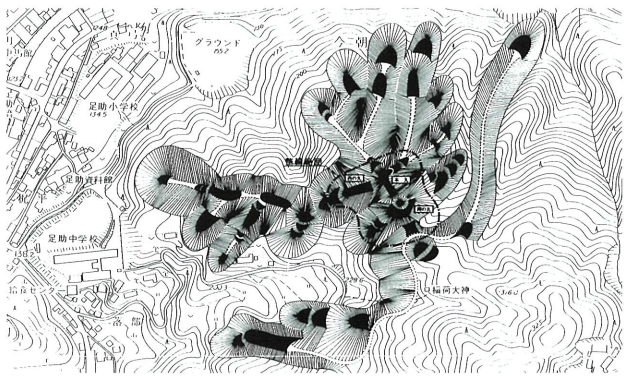
⓫ 本丸
足助城の中心である本丸は、足助の町並みを眼下に見下ろすとともに、信州と美濃への街道、岡崎・名古屋への街道を望むことができます(標高301m)。発掘調査に基づき、掘っ建て柱の高櫓と長屋が復元されました。高櫓は、江戸時代の天守閣にあたるものです。

⓬ 北腰曲輪1
信州(長野県)への街道を、正面に望むことができます。本丸寄りに、4.5×6.8mの建物跡がみつかりましたが、建物の中を通って本丸へ行ったのでしょう。

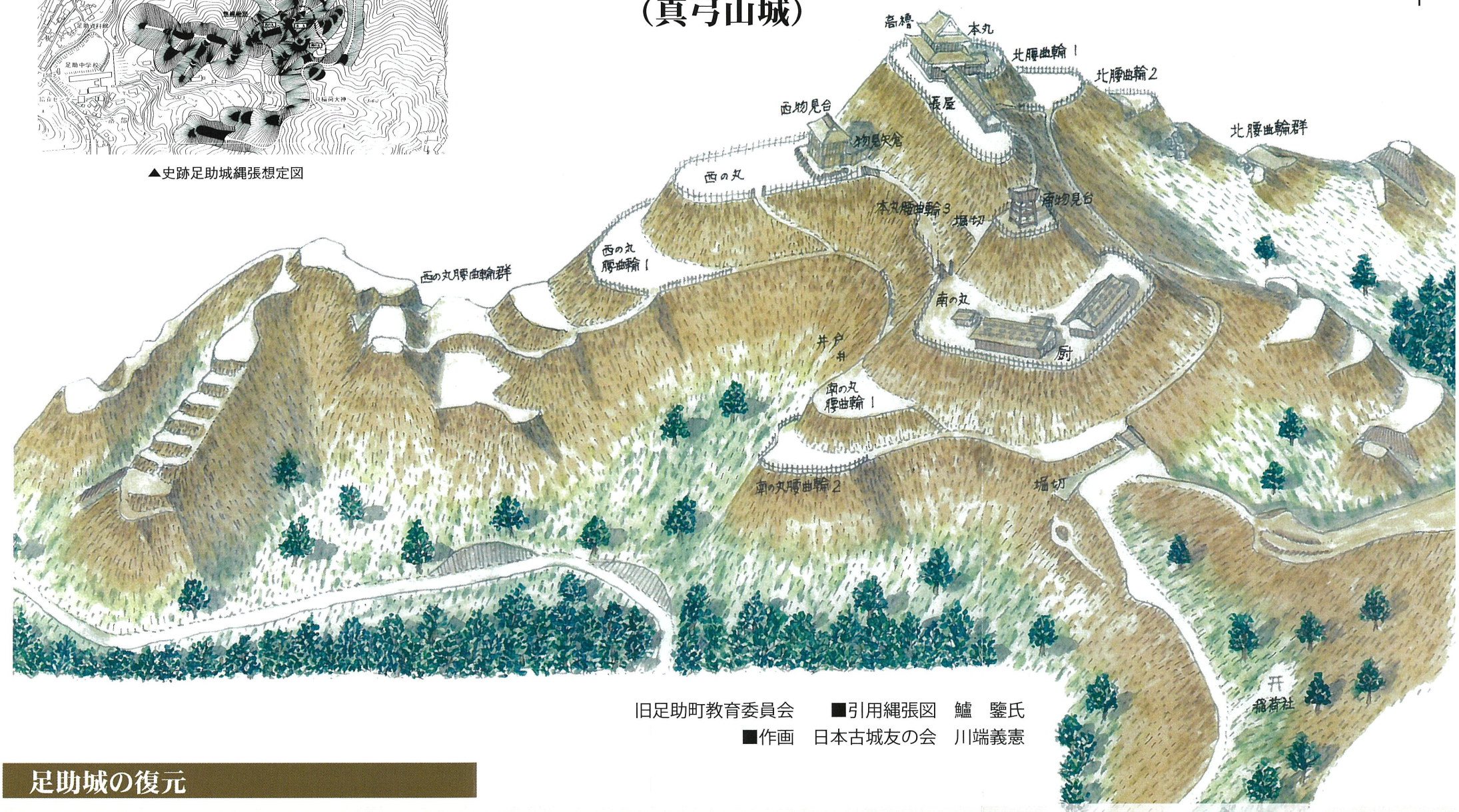
⓭ 本丸腰曲輪1
美濃(岐阜県)の東部への街道を、正面に望むことができます。

⓮ 北腰曲輪2
信州(長野県)への街道を、正面に望むことができます。台形の建物跡がみつかりました。

三河 足助城
（真弓山城）



▲史跡足助城縄張想定図



旧足助町教育委員会　■引用縄張図　鱸　鑒氏
■作画　日本古城友の会　川端義憲

足助城の復元

足助城の復元は相当古い時期からあった。飯盛山にと考えて昭和３８年頃より当時名古屋工業大学の城戸久教授によって絵図面まで作成されたが、諸事情によって実現されなかった。平成元年の「ふるさと創生事業」と翌年の足助町制１００年記念によって、県指定史跡の飯盛山城を避けて、真弓山城を「城跡公園足助城」として整備することが決定した。史実に基づいた復元ということで、戦国時代の鈴木氏の城を、発掘調査により検出された建物跡を、戦国時代の生活を浮かび上がらせる工夫をするということで、再建専門委員会と発掘調査委員会を発足させた。平成２～４年まで発掘が行われ、本丸、北腰曲輪１・２、南物見台、南の丸、南の丸下堀、西物見台、西の丸、西の丸腰曲輪、本丸腰曲輪３、南腰曲輪１が調査された。発掘調査の結果、❶ 鎌倉時代から南北朝時代の足助氏の遺物、遺構は認められない。❷ 出土遺物は１５世紀後半から１６世紀後半のものが主体である。当初は軍事空間的な役割のみが強かったが、１６世紀前半以降は生活空間的な役割も加わった。❸ 調査したすべての曲輪から建物の痕跡が認められた。堀立柱建物が中心でかなりの規模が想定される。❹ 本丸、西の丸の建物は２期以上の時期が認められる。❺ 落城の記録があるが、焼け落ちた痕跡はない。❻ 南の丸では、柱穴列に沿い石置き屋根に使われたと思われる石が数多く置かれ、廃城の段階で取り外されたようだ。❼ 曲輪間を結ぶ道が確認され、道のあり方から守りを主体としている。以上のことから、平成３年に本丸に高櫓と長屋、南物見台には建物の柱穴が重複したため推定した矢倉本丸と南物見台を結ぶ橋を復元した。翌年、西物見台に矢倉と塀、南の丸に厨２棟が復元された。これらの建物は検出した建物跡に忠実に、また遺構面を保護するため、１mの盛り土を行い、元位置に復元された。なお真弓山では、明治時代以降に数回公園化が計画され、新しい登山道が整備されたが、復元にともないできる限り、戦国時代の道に戻した。

（足助資料館発行「城跡公園足助城」の足助城の復元より抜粋）

足助城とは

足助城は、標高301mの真弓山の山頂を本丸として、四方に張り出した尾根を利用した、連郭式の山城です。真弓山は、足助の町並みを眼下に見下ろす要害の地です。足助城は、「真弓山城」とも呼びますが、「松山城」「足助松山の城」とも呼んだようです。鎌倉時代に足助氏が居城したという、「足助七屋敷(足助七城)」の一つとも伝えられますが、今回の発掘調査では、この時代の遺物は発見されず、現在残された遺構は、15世紀以降に鈴木氏が築城した跡と考えられます。足助鈴木氏の初代忠親は、15世紀後半の人といわれ、16世紀に入ると、岡崎の松平氏との間で従属離反を繰り返しますが、永禄7年(1564)以降は、松平氏のもとで、高天神城の戦いなどに武勲をあげます。そして、天正18年(1590)康重のとき、徳川家康の関東入国に従って、足助城を去りますが、間もなく家康から離れ、浪人したと伝えられます。

年 表

■大永5年(1525)
岡崎の松平清康(家康の祖父)、2,000余騎にて足助へ攻め寄せる。以後城主鈴木氏、松平の麾下に属す。

■天文4年(1535)
〔松平清康没・守山くずれ(12月)〕

■天文23年(1554)
今川家の家臣、馬場幸家来攻、鈴木氏は今川方に降る。

■永禄7年(1564)
松平元康(家康)、3,000余騎をもって来攻、松平の麾下に属する。

■元亀2年(1571)
甲州武田信玄25,000の兵を率いて三河に乱入。足助城は武田方、下条伊豆守信氏を城代とする。

■元亀4年(1573)(天正元年)
〔武田信玄没(4月)〕家康の長男、岡崎三郎信康、足助城を攻める。武田勢を追い払い、旧主鈴木氏に守らせる。

■天正3年(1575)
武田勝頼、15,000の兵を率いて三河乱入。〔長篠の合戦(5月)〕

■天正18年(1590)
城主鈴木氏、家康の関東入国に従う。足助城廃城となる。

足助鈴木氏

足助に鈴木氏がいつ頃入ってきたか、はっきりしないが、足助城を本城として周辺の名主層や土豪層を配下に治め、戦国時代の足助地方で威をふるった。

初代 忠親
二代 重政
三代 重直
四代 信重
五代 康重

出土品

足助城の発掘調査による出土物や資料は、足助資料館に展示してあります。